

第4章

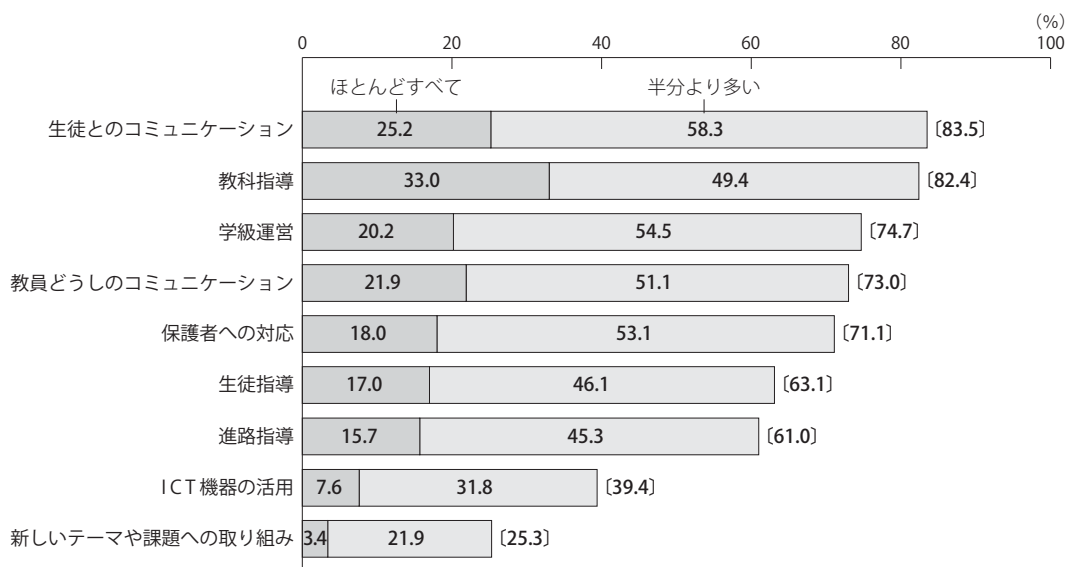
指導力向上の取り組み

第1節 学校レベルからみた教員の指導力の実態と指導力向上の取り組み

1-1 校長が感じる教員の指導力の実態

「生徒とのコミュニケーション」「教科指導」が十分できている教員が「多い」（「ほとんどすべて」「半分より多い」の合計、以下同）と回答した校長は8割を超える。一方、「ICT機器の活用」（39.4%）や「新しいテーマや課題への取り組み」（25.3%）では「多い」と回答した比率が低い。

図4-1-1 校長が感じる教員の指導力の実態【校長調査】（全体）



注) [] 内は十分できている教員が「多い」（「ほとんどすべて」+「半分より多い」）の%。

表4-1-1 校長が感じる教員の指導力の実態【校長調査】

	全体 (n=830)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=253)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
生徒とのコミュニケーション	83.5	84.1	83.3	87.8	82.6	<u>77.1</u>	85.3	81.9	84.9	79.3
教科指導	82.4	82.7	93.3	88.6	74.6	<u>71.1</u>	83.8	83.1	83.3	79.3
学級運営	74.7	76.0	80.0	82.2	72.4	<u>63.8</u>	67.6	73.1	72.8	75.9
教員どうしのコミュニケーション	73.0	74.4	68.3	75.5	76.8	74.7	<u>67.7</u>	71.3	74.3	70.7
保護者への対応	71.1	72.9	76.7	77.9	68.1	<u>63.8</u>	67.7	66.9	71.2	63.8
生徒指導	63.1	62.8	55.0	66.4	63.7	<u>55.4</u>	<u>52.9</u>	67.5	66.7	65.5
進路指導	61.0	61.6	80.0	65.6	<u>54.3</u>	<u>44.6</u>	<u>51.5</u>	63.1	63.6	60.4
ICT 機器の活用	39.4	34.8	38.4	<u>32.8</u>	36.2	<u>32.5</u>	44.1	53.8	59.1	50.0
新しいテーマや課題への取り組み	25.3	25.4	33.4	26.1	21.0	20.5	25.0	23.1	24.3	22.4

注1) 十分できている教員が「多い」(「ほとんどすべて」+「半分より多い」)の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) は全体よりも5ポイント以上、 は10ポイント以上低いものを示す。

校長に、教員の指導力の実態をたずねたところ、「生徒とのコミュニケーション」「教科指導」が十分できている教員が「多い」(「ほとんどすべて」「半分より多い」の合計、以下同)と回答した比率は8割を上回った(図4-1-1)。一方、「ICT機器の活用」(39.4%)や「新しいテーマや課題への取り組み」(25.3%)では「多い」

と回答した比率が低かった。学校種別にみると、普通科Aグループでは「教科指導」(93.3%)や「進路指導」(80.0%)、専門学科では「ICT機器の活用」(53.8%)について、十分できている教員が「多い」と回答した比率が、全体よりも10ポイント以上高かった(表4-1-1)。

II 学習指導に関する学校の取り組みと教員の実態・意識

1-2 校内研修

今年度の校内研修についてたずねたところ、全体の平均回数は4.9回であった。その主な内容や領域は、「教科指導」(49.0%)や「進路指導」(46.4%)、「特別支援教育」(46.2%)や「生徒指導」(45.7%)であった。

図4-1-2 今年度の校内研修の回数〔平均値〕
【校長調査】

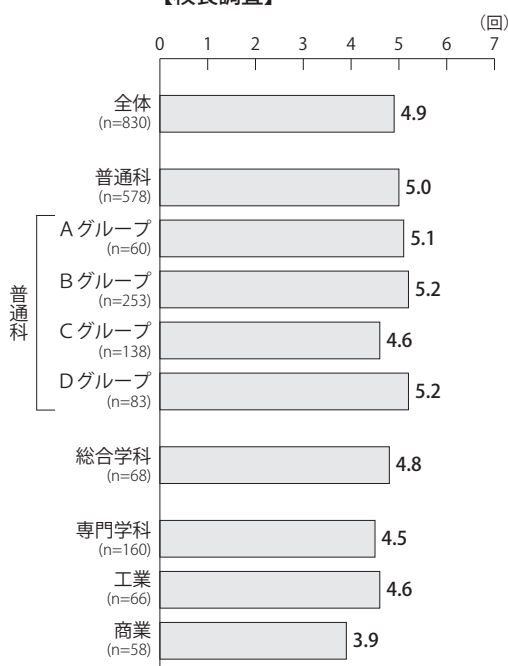
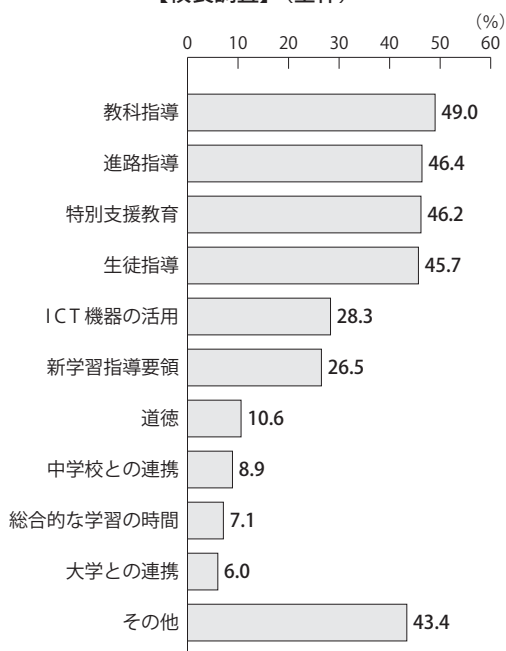


図4-1-3 今年度の校内研修の内容や領域
【校長調査】(全体)



注1) 複数回答。

注2) 今年度の校内研修が1回以上あると回答した校長 (n=829)のみ分析。

校長に、今年度の校内研修についてたずねたところ、全体の平均回数は4.9回であった(図4-1-2)。学校種別に見てみると、専門学科のうち商業でやや少ないものの、いずれも5回前後であった。次に、その内容や領域について、複数回答でたずねたところ、「教科指導」(49.0%)や「進路指導」(46.4%)、「特別支援教育」(46.2%)や「生徒指導」(45.7%)が多かつ

た(図4-1-3)。「その他」(43.4%)について、その内容を自由記述の回答から確認すると、「人権教育」「服務規律/コンプライアンス/ハラスメント/不祥事防止」「応急手当/心肺蘇生法/AED」「危機管理/学校安全/不審者対応/事故防止」「教育相談/心の教育/カウンセリング/ピアサポート」などの回答が多くみられた。

表4-1-2 今年度の校内研修の内容や領域【校長調査】

	(%)									
	全体 (n=829)	普通科 (n=577)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=252)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
教科指導	49.0	49.7	55.0	47.2	47.1	55.4	55.9	41.9	42.4	37.9
進路指導	46.4	51.5	71.7	58.7	42.0	31.3	47.1	27.5	22.7	31.0
特別支援教育	46.2	44.5	23.3	41.7	49.3	62.7	48.5	51.9	57.6	36.2
生徒指導	45.7	44.7	43.3	36.5	55.1	50.6	45.6	48.1	47.0	41.4
ICT 機器の活用	28.3	26.5	15.0	29.8	31.9	19.3	27.9	34.4	34.8	32.8
新学習指導要領	26.5	26.0	28.3	23.0	26.1	28.9	27.9	25.0	19.7	29.3
道徳	10.6	9.9	10.0	9.9	8.7	8.4	2.9	18.1	13.6	20.7
中学校との連携	8.9	11.6	8.3	11.9	13.0	16.9	1.5	3.1	1.5	3.4
総合的な学習の時間	7.1	8.3	13.3	7.1	5.8	10.8	8.8	1.3	0.0	1.7
大学との連携	6.0	5.9	11.7	6.3	5.1	3.6	2.9	6.3	7.6	6.9
その他	43.4	45.2	43.3	47.6	45.7	42.2	42.6	37.5	42.4	34.5

注1) 複数回答。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。

校内研修の内容や領域について、学校種別に見てみると、普通科A・Bグループでは「進路指導」を選択した校長の比率が、それぞれ71.7%、58.7%となっている(表4-1-2)。いずれも、全体よりも10ポイント以上高くなっている。一方、普通科Dグループや専門学科の

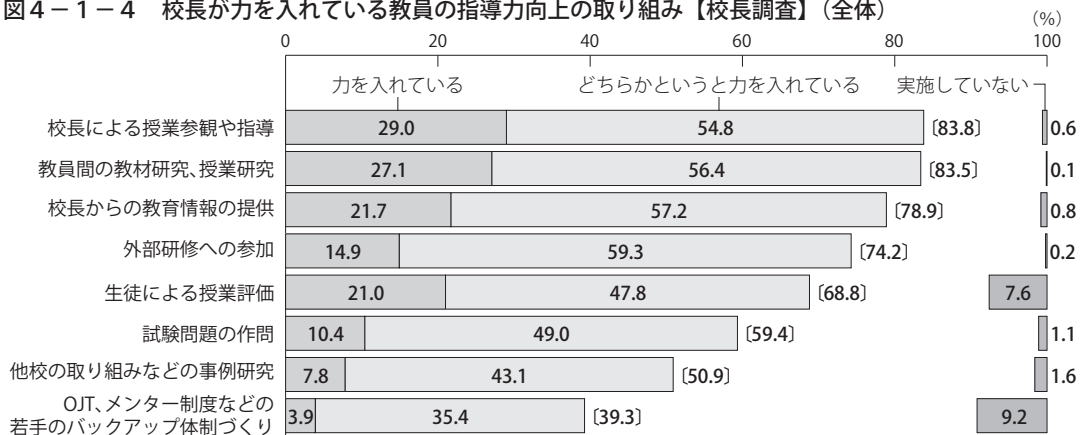
うち工業では、「特別支援教育」を選択した校長の比率が、全体よりも10ポイント以上高くなっている。なお、「新学習指導要領」の選択率は、いずれの学校種においても、おおむね2割台であった。

Ⅱ 学習指導に関する学校の取り組みと教員の実態・意識

1-3 校長が力を入れている教員の指導力向上の取り組み

教員の指導力を向上させるために、「校長による授業参観や指導」「教員間の教材研究、授業研究」に「力を入れている」「力を入れている」「どちらかという力を入れている」の合計、以下同)と回答した比率は8割を超える。一方、「他校の取り組みなどの事例研究」(50.9%)や「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」(39.3%)に「力を入れている」と回答した比率は相対的に低くなっている。

図4-1-4 校長が力を入れている教員の指導力向上の取り組み【校長調査】(全体)



注) [] 内は「力を入れている」+「どちらかという力を入れている」の%。

表4-1-3 校長が力を入れている教員の指導力向上の取り組み【校長調査】

	全体 (n=830)	普通科 (n=578)	Aグループ (n=60)	Bグループ (n=253)	Cグループ (n=138)	Dグループ (n=83)	総合学科 (n=68)	専門学科 (n=160)	工業 (n=66)	商業 (n=58)
校長による授業参観や指導	83.8	84.4	86.7	84.6	83.4	81.9	86.8	79.4	78.8	81.0
教員間の教材研究、授業研究	83.5	84.4	90.0	87.3	84.0	71.1	85.3	79.4	80.3	77.6
校長からの教育情報の提供	78.9	78.0	81.6	75.5	77.6	83.2	80.9	81.3	92.4	79.3
外部研修への参加	74.2	74.2	83.3	77.5	70.2	63.8	70.6	75.7	74.2	77.6
生徒による授業評価	68.8	71.5	73.3	77.5	69.6	53.0	72.0	58.8	63.6	60.4
試験問題の作問	59.4	63.5	88.3	66.8	54.3	44.6	51.4	47.5	48.5	53.5
他校の取り組みなどの事例研究	50.9	52.1	71.7	54.1	40.6	44.5	54.4	46.3	40.9	60.4
OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり	39.3	38.1	45.0	37.2	35.5	36.1	44.1	41.2	54.5	34.5

注1) 「力を入れている」+「どちらかという力を入れている」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) 〃は全体よりも5ポイント以上、〃は10ポイント以上低いものを示す。

校長に、教員の指導力を向上させるための取り組みについてたずねたところ、「校長による授業参観や指導」「教員間の教材研究、授業研究」に「力を入れている」「力を入れている」「どちらかという力を入れている」の合計、以下同)と回答した比率がもっとも高く、8割を超えている(図4-1-4)。一方、「他校の取り組みなどの事例研究」(50.9%)や「OJT、メ

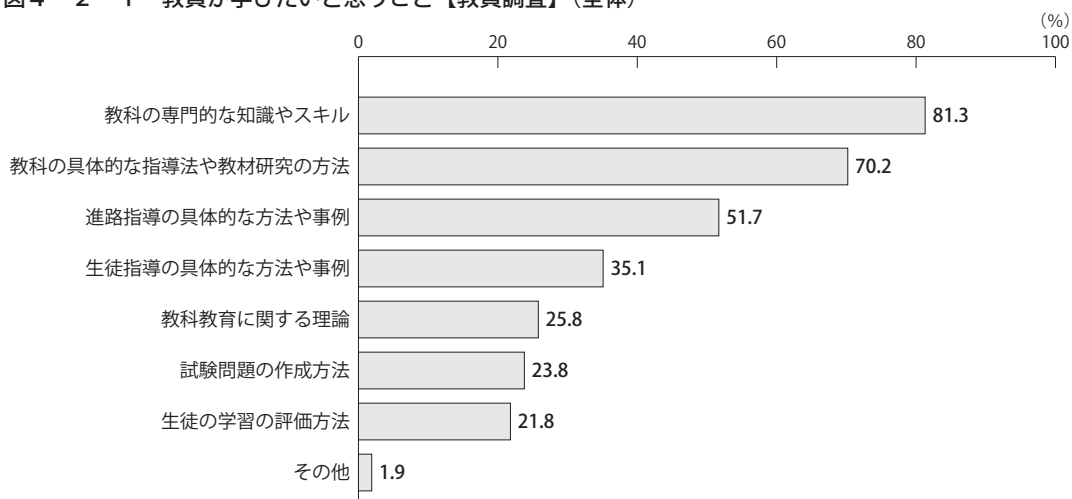
ンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」(39.3%)に「力を入れている」と回答した比率は相対的に低い。学校種別にみると、普通科Aグループでは「試験問題の作問」(88.3%)や「他校の取り組みなどの事例研究」(71.7%)に関して、「力を入れている」と回答した比率が全体よりも10ポイント以上高くなっている(表4-1-3)。

第2節 教員レベルの指導力向上の取り組み

2-1 教員が学びたいと思うこと

教員が学びたいと思うことについて、「教科の専門的な知識やスキル」と回答した比率がもっとも高く 81.3%であった。「教科の具体的な指導法や教材研究の方法」(70.2%) や「進路指導の具体的な方法や事例」(51.7%) と回答した比率も比較的高い。

図4-2-1 教員が学びたいと思うこと【教員調査】(全体)



注) 複数回答。

表4-2-1 教員が学びたいと思うこと【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
教科の専門的な知識やスキル	81.3	82.6	85.4	84.1	81.3	78.2	76.7	78.3	73.8	82.9
教科の具体的な指導法や教材研究の方法	70.2	71.1	72.8	70.7	71.8	71.1	68.3	67.8	68.1	68.9
進路指導の具体的な方法や事例	51.7	53.6	55.3	53.5	54.6	48.7	43.6	46.9	45.4	47.6
生徒指導の具体的な方法や事例	35.1	33.9	28.9	28.6	41.2	44.8	33.9	40.0	40.6	36.6
教科教育に関する理論	25.8	26.5	26.0	28.6	22.9	24.4	21.6	24.8	24.0	26.8
試験問題の作成方法	23.8	25.5	31.3	25.4	24.5	17.9	21.1	17.8	19.2	16.5
生徒の学習の評価方法	21.8	20.6	19.5	19.9	23.7	17.9	21.1	26.0	27.5	25.0
その他	1.9	1.8	1.2	2.3	0.6	2.9	1.8	1.8	1.3	2.4

注1) 複数回答。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) □は全体よりも5ポイント以上、▬は10ポイント以上低いものを示す。

教員に、学びたいと思うことをたずねたところ、「教科の専門的な知識やスキル」と回答した比率がもっとも高く 81.3%であった(図4-2-1)。「教科の具体的な指導法や教材研究の方法」(70.2%) や「進路指導の具体的な方法

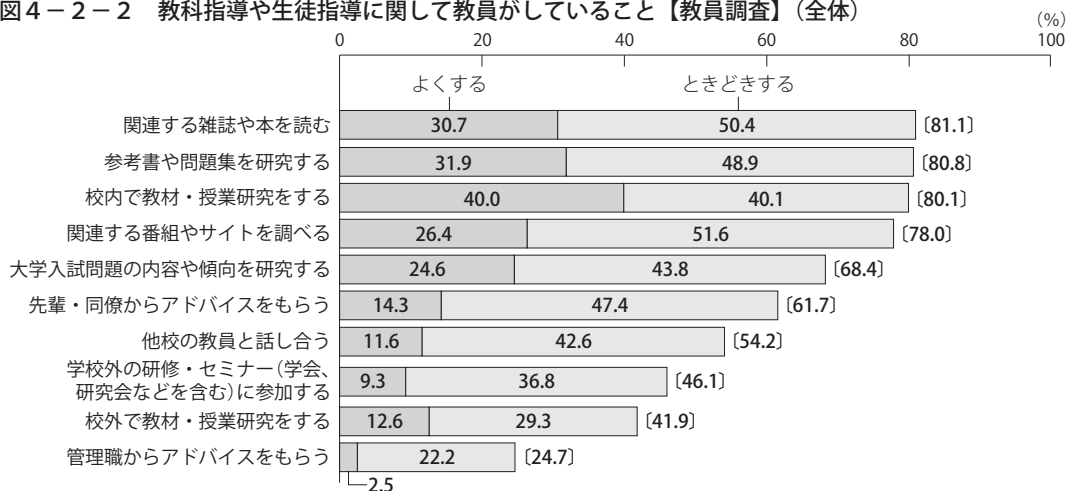
や事例」(51.7%) と回答した比率も比較的高い。「教科の専門的な知識やスキル」と「教科の具体的な指導法や教材研究の方法」の2項目については、学校種の差異を超えて、7~8割の教員が学びたいと思っている(表4-2-1)。

II 学習指導に関する学校の取り組みと教員の実態・意識

2-2 教科指導や生徒指導に関して教員がしていること

「関連する雑誌や本を読む」「参考書や問題集を研究する」「校内で教材・授業研究をする」「関連する番組やサイトを調べる」ことを「する」「よくする」「ときどきする」の合計と回答した比率は8割前後と高い。

図4-2-2 教科指導や生徒指導に関して教員がしていること【教員調査】(全体)



注) [] 内は「よくする」+「ときどきする」の%。

表4-2-2 教科指導や生徒指導に関して教員がしていること【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
関連する雑誌や本を読む	81.1	81.8	86.6	84.1	75.5	79.8	78.9	79.2	77.8	78.6
参考書や問題集を研究する	80.8	83.9	91.9	88.3	80.5	67.5	78.4	69.0	71.2	75.0
校内で教材・授業研究をする	80.1	80.1	84.2	80.2	81.1	76.3	80.2	79.7	78.6	81.1
関連する番組やサイトを調べる	78.0	77.8	73.2	78.5	75.5	80.2	73.6	80.3	77.7	84.8
大学入試問題の内容や傾向を研究する	68.4	75.8	91.1	86.5	67.2	40.9	59.0	39.3	40.6	47.0
先輩・同僚からアドバイスをもらう	61.7	62.2	64.2	63.5	59.1	60.4	59.9	59.8	57.6	64.7
他校の教員と話し合う	54.2	54.5	56.5	55.1	53.6	52.2	49.8	53.1	52.8	50.6
学校外の研修・セミナー(学会、研究会などを含む)に参加する	46.1	48.1	65.9	49.3	41.4	38.9	42.3	38.1	35.8	40.2
校外で教材・授業研究をする	41.9	42.5	48.0	44.1	41.6	40.2	43.1	37.6	35.4	42.1
管理職からアドバイスをもらう	24.7	25.2	25.7	22.7	25.3	30.2	23.3	21.5	20.9	23.7

注1) 「よくする」+「ときどきする」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) □は全体よりも5ポイント以上、▭は10ポイント以上低いものを示す。

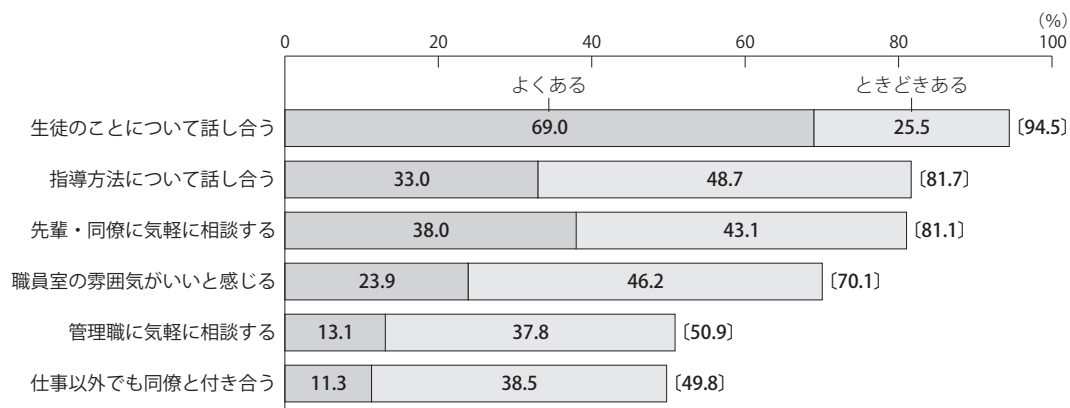
教員に、教科指導や生徒指導に関してどんなことをしているかをたずねたところ、「関連する雑誌や本を読む」「参考書や問題集を研究する」「校内で教材・授業研究をする」「関連する番組やサイトを調べる」ことを「する」「よくする」「ときどきする」の合計、以下同)と回答した比率は8割前後と高かった(図4-2-2)。一方、「学校外の研修・セミナー(学会、研究会などを含む)に参加する」(46.1%)、「校

外で教材・授業研究をする」(41.9%)、「管理職からアドバイスをもらう」(24.7%)ことを「する」と回答した比率は半数を下回る。学校種別にみても、「関連する雑誌や本を読む」「参考書や問題集を研究する」「校内で教材・授業研究をする」「関連する番組やサイトを調べる」の4項目については、学校種によらず7~9割もの教員が「する」と回答している(表4-2-2)。

2-3 職場や先生方との関係

「生徒のことについて話し合う」ことが「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計、以下同）と回答した教員の比率は94.5%と高い。「指導方法について話し合う」（81.7%）、「先輩・同僚に気軽に相談する」（81.1%）と回答した比率も8割を超える。

図4-2-3 職場や先生方との関係【教員調査】（全体）



注) [] 内は「よくある」+「ときどきある」の%。

表4-2-3 職場や先生方との関係【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
生徒のことについて話し合う	94.5	94.4	94.8	93.8	96.5	93.8	92.9	95.3	93.9	96.3
指導方法について話し合う	81.7	82.8	84.6	82.6	83.6	80.2	79.8	78.2	77.3	78.6
先輩・同僚に気軽に相談する	81.1	80.9	80.5	80.0	82.8	82.8	84.1	79.9	<u>76.0</u>	84.7
職員室の雰囲気がいいと感じる	70.1	71.3	67.9	69.0	73.4	<u>79.5</u>	67.4	65.8	<u>64.6</u>	67.1
管理職に気軽に相談する	50.9	50.7	<u>45.5</u>	48.3	54.9	<u>56.8</u>	52.0	48.4	<u>43.7</u>	50.6
仕事以外でも同僚と付き合う	49.8	50.4	49.1	47.6	54.0	<u>57.8</u>	51.5	46.5	48.1	48.1

注1) 「よくある」+「ときどきある」の%。

注2) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注3) は全体よりも5ポイント以上、 は10ポイント以上低いものを示す。

教員に、職場や先生方との関係についてたずねたところ、「生徒のことについて話し合う」ことが「ある」（「よくある」「ときどきある」の合計、以下同）と回答した比率が94.5%ともっとも高い（図4-2-3）。「よくある」と回答した比率が69.0%に達することから、多くの教

員に共通することだと考えられる。「指導方法について話し合う」（81.7%）、「先輩・同僚に気軽に相談する」（81.1%）と回答した比率も8割を超える。上記3項目については、学校種にかかわらず、8～9割の教員が「ある」と回答している（表4-2-3）。